

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400881		
法人名	有限会社 ユースフル		
事業所名	グループホーム星の家 (1階 彦星)		
所在地	北海道札幌市手稲区稲穂1条7丁目8番18号		
自己評価作成日	平成28年6月24日	評価結果市町村受理日	平成28年8月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=tr ue&amp;JigvosyoCd=0170400881-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=tr ue&amp;JigvosyoCd=0170400881-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営者が長年住み慣れた土地に開設したこともあり、地域住民の方々からは開設当初から温かく見守られるという好条件のもと、間もなく13年が過ぎようとしています。ホームの花壇に立っている手作りの小さな(木製)案内板は雨や風に打たれて変色し、年月の経過を物語っているようです。他に事業所を持たず、こじんまりとした所ですが、家庭的な雰囲気大切にしており、経営者の父親や、看護師の母親も入居者されており、まさに大家族と言った感じで、朝から笑い声が響いています。立地条件にも恵まれ、山や海にも近く、空気がきれいなうえ、JR駅に近いことも特徴の一つです。職員は、入居者様と馴染みの関係になっても、理念に掲げられている『人格の尊重・楽しみのある生活空間作り、私たちはこの開かれた地域に愛され・信頼されるグループホームを目指します』を念頭に置き、一人ひとりの入居者様に安心して過ごしていただけるように、今後ともご家族や地域の方の協力のもと、チーム全体で質の向上を目指していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は郊外の閑静な住宅地にあり、JR駅から徒歩数分で国道からも近く、利便性に富んだ環境下に立地している。オーナーが長年住んでいた地元のため、地域との交流も密接に行われており、開設して13年を経て、地域の介護拠点となりつつある期待できる事業所である。当事業所の優れている点のひとつは、原則に徹した介護の実践があげられる。介護計画の中心をなす短期目標について、その進捗度を毎日記録に落とし、自分たちの介護の有効性を常に図り検証しながら実践する姿勢は、毎日の介護に没頭し目標を失いがちな介護職員に明確な目標を与えるという「達成する介護」を指向しており、大いに称賛されたい取り組みといえる。また運営推進会議も複数の家族代表や利用者、行政、地域代表と毎回20人近い参加者で行われ、内容的にもヒヤリハットから拘束抑制の問題まで、決して冗長に流されることなく核心的に論議報告されており、高く評価したい。開設以降13年にわたり、地域に根ざし、地域から離れることなく内実を高めている当事業所に、今後も多に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、EVホール、事務所、休憩室、応接室に掲示している。共有できていると思うが、時々ミーティング内で確認する時間も必要と思われる。	理念には、具体的内容が盛り込まれており、事務室や応接間等に掲示することで、職員や利用者とその家族に浸透するように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、新年会、清掃活動、花壇作り、盆踊り等に参加している。又、散歩や外気浴の際に近所の方と挨拶を交わしている。	地元町内とは広く交流が維持されており、散歩や買い物の途中等で気楽に声を掛け合う関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練を通じて、理解や支援方法を生かす機会を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、ホームからの報告だけでなく、出席者の方々からご意見を聞かせて頂いたり、研修を行ったりし、サービス向上に努めている。研修では外部からボランティアの講師を招くこともある。	毎回定期的で開催され、参加委員も毎回20人近くの参加を得ており、町内会の役員や家族のみならず利用者も参加しており、議題も事故報告や拘束禁止の実態例等、会議の重要性を十分に理解し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議の積極的活用を高く評価したい。今後は、遠慮している家族を含め、関係の機関に等しく議事録の送付を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が主体となり、連絡をとり協力関係を築いている。管理者会議での内容は、ミーティング等で報告している。	行政の窓口とは管理者が主に連絡調整しており、特に包括センターとは運営推進会議でも協力関係が構築されており、連携について取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯は、防犯上玄関(表・裏)の施錠をしているが、日中は解錠している。窓からの転落防止のため居室の窓ストッパーが必要な場合は、ご家族同意のもと実施している。	身体拘束の問題点を研修を通して学ぶだけではなく、具体的な事例をもちいながら、拘束も抑制もないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やミーティング等で勉強する機会をもち、身体的・精神的虐待防止に努めている。言葉の虐待も行わないように注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強する機会を設けてはいるが、活用については管理者やケアマネが行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、不安や疑問点がないように、時間をかけて説明を行い、ご理解・納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関、EVホールにご意見箱を設置したり、来訪時にご意見を伺いやすいようにしている。又、契約時には、外部への苦情相談機関があることも説明している。	サービスの満足度について、意見箱の設置や来所時の聴取に留まらず、独自のアンケート調査を毎年実施している。出された意見は職員やオーナーと協議し、改善に努め、更なるサービスの質向上に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や、毎月のミーティング、日常会話の中で、意見や提案を聞く機会を設けているが、個人面談という形では行っていない。	各場面を活用し、職員の意見反映に努めており、管理者や各階の介護リーダーが職員との意見や意向の場を設けながら、意見の取り込み、反映に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験年数や実力を考慮して給与を支給しており、介護職員処遇改善給付金も年2回支給している。食事補助も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の経験や力量に応じて参加の機会を設けているが、内部ではミーティングの時間を活用し、勉強の機会を設けている。又、介護新聞や介護雑誌の年間購読により、自発的に学習できる機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や、区が開催する管理者会議には、ほぼ毎回出席し必要に応じて、現場にフィードバックしている。手稲区で毎年開催されている「ふれあいフェスティバル」にも参加し同業者との交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の時期から、時間をかけてご家族やご本人の想いや訴えを汲み取ることができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っていることや要望を一つずつ受けとめ、具体的に入居後のケア方針を伝えることで、安心感を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時から、ご本人やご家族が不安に思っていたことや訴えを一つずつ再確認し、サービス利用開始段階での支援の優先順位を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を忘れずに、職員が入居者様から教えられる立場の場面作りも行い、共同生活者としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を心がけているが、心身面に変化がみられる場合や、内服薬に変更がある場合にはその都度電話で報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所には滅多に行けないが、ご家族や親戚、知人の方の来訪時は、ゆっくり過ごして頂けるようにし、電話をかけた際には居室や事務所でかけて頂き、関係継続の支援に努めている。	交通の便の良さもあり、利用者の友人等の訪問もあり、その際はゆっくりく寛げるように取り組んでいる。また行きたい店や病院、馴染みの理美容の利用も、本人や家族の意向を中心に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様に安心して過ごしていただけるように様子を見極め、良い関係が保てるよう職員が介入したり、声掛けしたりし、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、病院や施設等へ足を運び、経過を確認している。外でご家族にお会いした際は、お世話になった感謝の気持ちを伝え、病院や施設等での様子を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様お一人おひとりの日頃の言動や表情などから、希望や意向を汲み取るように努めている。	センター方式での聞き取りや家族の意向から本人の思いを汲み取り、本人本位のケアとなるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報やご本人との会話の中から、暮らし方を把握し、ホームでの環境に早く慣れていただけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の思いに寄り添い、心身の状況を把握しながら、できることは維持できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス時に、担当者がまとめた状況をもとに話し合い、ご家族の希望や意見も反映した介護計画を作成している。	介護計画の短期目標について、日々介護日誌に落とし込み、目標への達成度、進捗状態が毎日把握できるように努め、達成感のある介護となるようケアに臨んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し、申し送りもしながら、職員間で情報を共有、実践し、介護計画の見直しにも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況により、受診時、ご家族と同行したり、職員だけで同行することや、病院での書類にご家族に代わって記入する等している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や散歩、回覧板の届け、外食等、外出する機会を作り、ここでの生活が楽しめるよう支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に同意されているかかりつけ医往診は、全体・個人の(1人の入居者様に対して)月に2回あり、健康を維持できるように支援している。体調の変化時は、報告・相談し、指示を仰ぐ等連携を図っている。	協力医が往診で月2回診察してくれるため、ほぼ協力医がかかりつけ医となっている。診療科によって専門医にかかる場合もあるが、対応は職員が同行して情報の提供を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週3回出勤し、入居者様の健康管理を行っている。勤務時間外にも体調不良者が出了らる場合は職員にアドバイスをしてくれたり、直接診てくれたりもし、連携が図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、基本情報や介護添書を早めに提出したり、関係者に口頭で必要事項を伝えている。又、入院後も病院へ足を運び情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合について、ご家族への説明は行っているが、現時点での対象者はいない。	重度化のケアについて文書で契約時に説明している。突発的に最後を過ごした利用者はいたが、現状では対象者は出ていない。いつでも即したケアを実行できるよう、職員は研修等でチームでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、常時閲覧できるようにしている。緊急時や事故発生時はマニュアルに添って対応し、夜間は管理者やかかりつけ医の指示を仰いでいるが定期的な訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定し、年4回の避難訓練を実施しており、町内会の方にも参加協力をいただいている。火災以外の災害マニュアルも作成している。	町内会の協力を得ながら、防災訓練を年に4回取り組み、また備蓄品も3日程度確保されており、突然の災害に備えている。	今後は、避難場所の確保と避難路の確認、また冬季の暖房対策について協議するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格の尊重を忘れず、日々のケアでは、丁寧な言葉かけや対応を心がけている。	一人ひとりに一人ひとりに対応することを原則に、バラバラな対応にならないよう留意し、その根源である人への尊敬を大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や様子を注意深く見守り、ご本人の思いに寄り添い、自己決定できるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人であることを希望される方には、無理強いせず、居間で過ごしていただき、居間で過ごされる方には、趣味をはじめ関心のあることを、探りながら提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容室にて散髪やパーマ・髭剃りを行っている。化粧液等を使用の方には無くなる前にご家族に連絡したり入居者様と買いに行くなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食材やメニューがある場合は、代替品を使用するなどし、食事が楽しめるようにしている。準備や後片付けも一緒に行って頂き、感謝の言葉を伝えている。	食事の全工程で、出来る人には協力をお願いし、みんなで参加する楽しい食事を目指している。その人に応じて好き嫌いも重要視し、より朗らかな食事風景となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は必ず記入しており、必要に応じて食事の内容や形態を一部変えたりして提供している。小食のため栄養不足と思われる場合は、エンシュアリキッド等での補給も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを行っている。必要に応じて見守りや介助を行い、定期的に歯科医による往診も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ノートの活用にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合った声掛け・誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄サインを排泄ノートで共有し、トイレでの排泄になるよう努め、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動の継続、牛乳やヨーグルト、乳酸飲料の提供、繊維質の多い副食、必要水分量の確保等にて便秘予防に努めているが、状況に応じて下剤調整も行いながら対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	会社の経営上、日中の入浴時間や、回数は決まっているが、入浴時・着脱時のご自身でできないことを介助し、ゆっくり傾聴できる時間を大切にしている。	入浴は週に2回を原則としており、拒否者には無理強いすることなく、楽しめるお風呂支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度や湿度・照明・音等に配慮し、その日の体調に合わせて、ゆっくり休んでいただけるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに入っている薬の写真(説明書)は、いつでも見ることができ、確認するように心掛けている。変更がある時には、申し送りや連絡ノートにて確認し、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合ったできるお手伝いや、好きなこと、関心のあること・趣味(塗り絵・パズル・刺し子等)を通じて楽しみのある生活が送れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5月～10月の天気の良い日の外気浴や散歩、近くのスーパーへの買い物のほか、年間行事として、お花見やドライブ、外食等で、戸外に出かけられるように努めている。ご家族の協力で度々出かけられる入居者様もおられる。	桜のお花見や紅葉狩りの季節のドライブだけではなく、近所への散歩や外気浴、スーパーへの買い物にも積極的に出かけるように努め、閉じこもらない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、契約時に了承をいただき、居室には現金を置かず、事務所で預かりしており、買い物時や外出時に持ち出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族や親戚、友人などへの電話を希望される場合は、居室や事務所でかけて頂いたり、取次をさせて頂いたりし、支援に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間においては、常にTV音や、CDプレイヤーの音量や室温・湿度等に配慮し、入居者様が居心地よく過ごせるようにしている。又、季節の飾りを入居者様と一緒に作ったり、飾ったりし、一緒に楽しむことができるように努めている。	居間や食堂の共有空間は、採光も良く明るく開かれた空間となっており、ほとんどの利用者が日中は居間で過ごすとの言葉通り、ゆったりと落ち着ける様工夫が感じられる。また廊下や壁に過度な掲示もなく、家庭的な雰囲気を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているが、ほかの時間は入居者様の意志に任せている。カルタや歌会の際には、職員の声掛けによる移動もしていただき楽しんでいただけるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、馴染みの物や、ご本人が好まれるような物を持参していただいている。家具の配置や壁の飾りつけは、入居前の生活をヒントにし、居心地よく過ごしていただけるような工夫をしている。	居室は、馴染みの家具が置かれ、壁には家族の写真が散在するなど心安らぐ自分の部屋となっており、仏壇なども見受けられ、自由気ままな自分のための部屋という支援工夫が見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には入居者様の顔写真やネームプレート、又、トイレ前には大きな字で表示プレートを掲示することで、迷わずにご利用できるように工夫している。		